



農地中間管理機構だより



明けましておめでとうございます。

皆様方には、日頃から、農地中間管理事業及び農地売買等事業の推進にご協力をいただきまして、ありがとうございます。本年も農地集積・集約化と地域農業の発展のために、より一層のご理解とご協力をいただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

●農地中間管理機構関連農地整備事業の取組～「大崎町益丸地区」～

平成32年4月に事業採択を目指めざしている「大崎町益丸地区」の近況を紹介します。

今年1月10日に県農村整備課の現地調査に公社も同行し、益丸地区（約55ha）の農地中間管理権の設定状況を説明しました。益丸地区において、事業要件である収益性の20%向上を目指し、水田の汎用化を図る必要があることから、地下灌漑排水システムの導入も計画されており、地下灌漑システムの効果検証として、町単独で実証ほ場の設置と効果検証を行っております。しかし、今年度作付けしたソバは台風被害で検証できなかったため、今後県曾於畑かんセンターの協力の下で、露地野菜の選定と作付け栽培並びに効果検証を行い、さらには、益丸地区の畑作導入の可能性として大型畑作法人勧誘のPR資料に検証結果を活用できるものと考えております。

平成31年度は、事業採択申請を行う予定ですが、事業採択申請までに営農計画、担い手へ集積計画を立てるべく関係機関の連携のもと地権者や担い手農家等との話し合いをさらに進めて実効性のあるものにしていかなければなりません。

●平成30年度の中間管理事業状況

V期（2月1日貸出開始分）までの転貸見込みです。

主な市町村の取組実績<転貸順>(H31年1月現在)

市町村	転貸面積(ha)	耕地面積(ha)
南九州市	216	9,070
大崎町	128	4,080
鹿屋市	97	10,200
霧島市	91	5,960
湧水町	80	1,860



編集後記

実家の猫の額ほどの畑に、今年初めてスイートスプリングが実りました。夏の草取りなど、熱中症気味になりながらも農作業を手伝ってきた甲斐がありました。おいしくビタミン補給して冬の寒さを乗り越え、来シーズンに向けて自主トシに励みたいと思います。



あなたと共に“地域”と“未来”をつくる。